

きかせてください！

もちの思い出 NO 17

お餅を食べるとほっとしますか。日本のスローフードであるお餅は食べる人の心まで温かくやわらかくしてくれる気がします。日本人のハレ食だったお餅も近年は食べる機会が少なくなつてまいりました。餅にまつわるいろいろなお話や思い出がありましたらぜひお聞かせください。



□ 仙台市 藤村様

今日で三回目の訪問だと思えます。一関においしいお餅の店があるということを、前々から友人から聞いていました。お盆中に2回位来ております。いつも車で迷いながら探します。今回もグルグル廻ってきました。今日もおいしくいただき、満足して帰ることができました。ごちそう様でした。

□ 豊田市 小林様

私と兄に子供が生まれてからはお正月に私の実家へ帰省すると(福岡)うすときねを出してきて、餅つき大会が始まります。皆手を真っ赤にして、餅を丸めたり、掛け声ありでもちをついたり、とても楽しく行っています。



□ 横須賀市 小高様

一関へ一人旅できました。着いた日に体調を崩してしまい何も食べられませんでした。二日目の夜に温かい家庭的な物を食べたくて寄せてもらいました。風邪をひいている私は、ここのお雑煮を食べたら体にしてみてもっとする家庭的なおいしさを感しました。関東は味が濃いんですが、こちらのお店の薄味も大変よかったです。ありがとうございます

ございました。家に帰ってつくってみようと思います。忘れられない味ですね・・・。



□ 宮城県蔵王町 川村様

太平洋戦争の末期から戦後にかけて砂糖が貴重品であった頃のことです。伯母の婚礼の日に「あんこ餅」に使う砂糖が手に入らず、塩味の「あんこ餅」を食べた記憶があります。「塩味だけのあんこ」。それでも祝いの席に欠かせぬものとして「餅」はあり真下。搗きたてのもちを手でぎり、塩あんの中に入れていた祖母の手元を主出します。



□ 一関市 佐々木様

大晦日の夜、おばあちゃんのおうちでつくお餅の音(機械でしたが)が思い出です。お供えの餅を作った後、「ひと口分が大きい」とか「小さい」とかいながら、母が正月のお餅切ってくれました。今は亡き祖母の思い出と共に懐かしく思い出す年末です。

い」とか「小さい」とかいながら、母が正月のお餅切ってくれました。今は亡き祖母の思い出と共に懐かしく思い出す年末です。



□ 北九州市 鶴田様

小さい頃は岩手に住んでいました。今は九州の福岡に住んでいます。所変われば習慣も文化も多少の異なりがあり、もち文化もしかりです。幼い頃に祖父母の家で食したゴマ、くるみ、納豆、あんこ餅・・・など思い出されます。一度にいろいろ食べることができて、「おいしかった」という印象があります。パンフレットで見て思わず訪ねてきてしまいました。「ああ、なつかしい。」の一言です。おいしかったです。

